



なべの外の世界で何がおこっているの？



東京タワーのそばにある、見た目は普通だけれども、ちょっと変わったおでんの屋台を知っていますか？かわいい犬のペロと、純朴なおじさんが働く屋台のお鍋の中には、おでんの妖精達が住んでいる、おでん村があるのです。今日も仲間たちのゆかいな笑い声が聞こえてきます。

ある日、おでん村の住人たちは、屋台に来たお客さんの話を小耳に挟みます。おなべの外の世界では、どうやら「環境問題」というものが起きていらしいのです。



◀「長年、なべの中の世界と外の世界を行き来してきたが、このごろ、外の世界が大きく変わってしまったのう。東京タワーができたころはのう・・・。」

日本の社会の移り変わり^{うつ}と環境^{かんきょう}

1. 成長社会の始まり（東京タワーができたころ）

東京タワーができたのは、きみたちが生まれるずっと前の昭和33年（1958年）、今から50年くらい前です。戦争（*）が終わって10年たち、その頃の日本では、大人たちが豊かな社会をつくろうと、みんないっしょうけんめいでした。（*第二次世界大戦1939年～1945年）

昭和30年代の都会の暮らし

「三種の神器」とよばれた冷蔵庫、洗濯機、テレビを買いそろえたり、マイカーを持つことに、だれもがあこがれていました。



冷蔵庫：家でも氷が作られるようになったよ。
(写真提供：三洋電機(株))



洗濯機：お母さんは、洗濯の重労働から開放されたよ。
(写真提供：三洋電機(株))



街頭テレビ：大相撲やプロレス、プロ野球の中継は大人気だったんだ。
(写真提供：三洋電機(株))



スバル360：だれもがマイカーを持てるように、国の呼びかけをきっかけにつくられたよ。
(写真提供：富士重工業(株))

昭和30年代の田舎暮らし

このころの田舎では、今よりお米や野菜をたくさん作っていました。機械に頼らず、牛や馬を使い、農薬もあまり使わなかったため、田んぼには、ドジョウやタガメなどの生物もたくさんすんでいて、それをエサにする鳥もたくさん集まってきました。



今、コウノトリやタガメなどは絶滅が心配されている種になっているよ。くわしくは、31ページをみてね。

牛を使った代かきのようす。
(写真提供：和歌山県御坊市)



きれいな川(兵庫県円山川)では、コウノトリがエサをとっていたよ。
(写真提供：高井信男氏)



茅葺き屋根の農家もたくさんあったよ。



昭和30年代の東京の暮らしぶり

映画「ALWAYS 三丁目の夕日」では、東京タワーが完成する昭和33年の東京の暮らしぶりが描かれています。

大人たちは、便利な冷蔵庫やテレビなどの電化製品を求めていました。子どもたちは、町のところどころにあった空き地や、まだ自動車が少なかった道路などに集まって遊んでいました。「駄菓子屋さん」は子ども達の人気スポットでした。映画では、そんな姿が描かれています。



路地裏の「駄菓子屋さん」

(写真：映画「ALWAYS 三丁目の夕日」より)
©2005「ALWAYS 三丁目の夕日」製作委員会



◀「やがてのう、
空気が汚れたり、川の水が
汚くなったりしたんじゃよ。」

2. 成長社会がもたらしたもの

暮らしが豊かになると、もっと便利なモノをもっとたくさん欲しいとだれもが思うようになり、そうした思いが「大量生産・大量消費」の世の中を作り出したのです。でも同じ頃、日本に公害という影が忍び寄っているなんて、気にしていませんでした。

昭和30年代の公害（産業型）

たくさんモノを作るため、日本のあちこちに工場が建てられました。

モノをたくさん作ることが一番重要なことだから、工場から出る煙や汚れた水なんて、気にしていませんでした。

それが原因で、川や海、空が汚れ「水俣病」をはじめ、人々を苦しめる公害が発生しました。

イタイイタイ病

鉱山からカドミウムが川に流れ、飲み水や米を通して体に入った。これが骨をボロボロにするひきがねになった。

日本の4大公害



水俣病・新潟水俣病

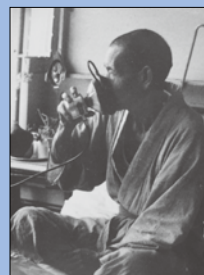
工場の排水に含まれていた「有機水銀」が、魚や貝の中にたまり、それを食べた人がけいれんや体のしびれなどを訴えた。



(写真提供：毎日新聞)

四日市ぜんそく

石油化学コンビナートからの煙が原因でぜんそくに苦しんだ。



(写真撮影：澤井余志郎氏)

注：現在は水俣湾の水や魚はきれいになりました。



「水俣病の50年」

昭和31年、熊本県の水俣湾を中心とした地域で、手足のしびれやマヒ、目が見えにくくなるなど、原因不明の病気があらわれはじめ水俣病とよばれるようになりました。昭和34年、熊本大学は、その原因が有機水銀であることを発表しました。水俣湾には、化学製品を作る工場があり、有機水銀を含んだ廃水を海に流しつづけていました。これが魚や貝の体にたまり、それを食べた人が、この病気にかかったということが分かりました。

水俣病問題は、日本が豊かさを求め便利な暮らしを手に入れようとする一方、企業や行政の対策が遅れるなかで拡大した公害です。私たちは、水俣病を学び、この経験と教訓を未来に生かさなくてはならないのです。



公害学習・環境学習で水俣市立水俣病資料館を訪れる子どもたち

(写真提供：水俣市立水俣病資料館)

「そして今は、一人ひとりの暮らしが地球の危機をまねいているんじゃないよ。」▶



昭和 40 ~ 50 年代の公害（都市・生活型）

公害を防ぐための法律や、工場や企業の取組で、産業型の公害はずいぶん減ってきました。でも、便利な暮らしを求めて都市に多くの人が集まるようになり、自動車の排気ガスや、生活排水など、日常生活が原因となる公害が発生するようになりました。

たいき おせん
大気汚染



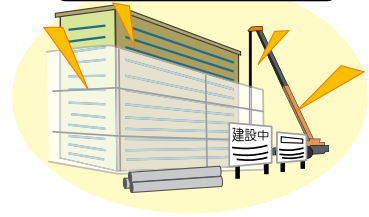
はいき げんいん
自動車の排気ガスも原因のひとつ

すいしつ おたく
水質汚濁



はいすい げんいん
家庭からの生活排水も原因のひとつ

そうおん
騒音



けんせつ げんいん
建設作業音も原因のひとつ

3. 現在の環境問題（一人ひとりの暮らしと地球環境問題）

地球温暖化や酸性雨などの地球環境問題は、毎日大量のエネルギーやモノを消費する現代社会に生きる私たち一人ひとりの暮らしが原因となって発生しています。

日本だけでなく世界中の人々の暮らしに、人間だけでなくそのほかの生物に、そして現在だけでなく未来に影響を及ぼす問題なのです。





「これからの日本は、
こどもの数が減ってわしらのような
と^{としよ}年寄りが多い社会になるんじゃないよ。」

4. これからの日本と環境 (人口減少社会をを考えてみよう)

これまで増加していた日本の人口は、平成17年にはじめて減少しました。

人口が減少すれば、自動車に乗る人も減るし、エネルギーだって使わなくなって、環境への影響が減るような気がしますね。でもちょっと話はちがうみたいです。

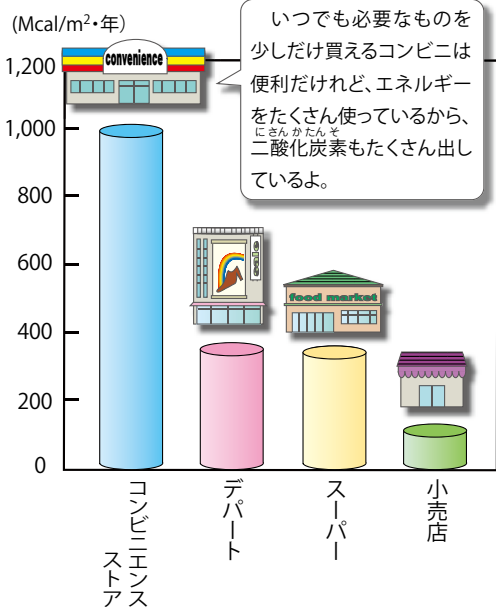
都会と田舎では、この影響のようすがちがっていて、こんなことが考えられます。

都会はどうなるのかな？

大都会には、人がたくさん集まってくるので、まだ田舎のように人口が減ってきているわけではありません。

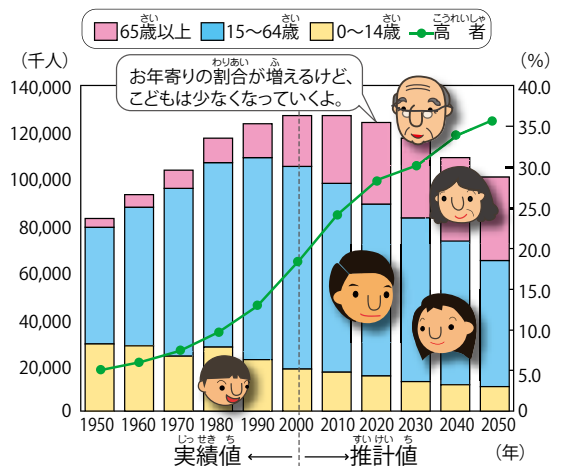
でも1人暮らしや少数で暮らす人が増えるから、かえて、ごみの量やエネルギーの消費量が増えそうです。

●売場面積当たりの二酸化炭素排出量



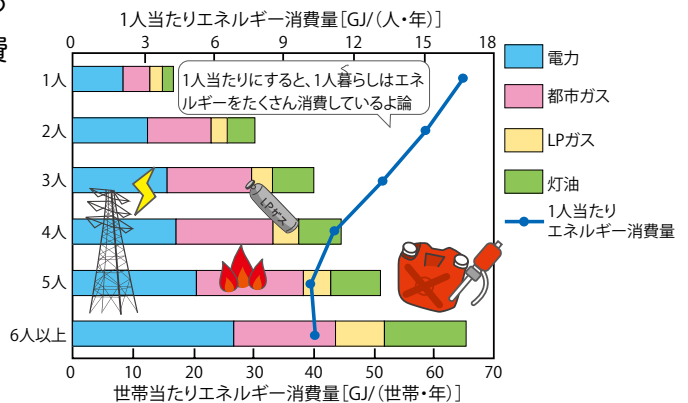
資料：(財)日本エネルギー経済研究所『民生部門のエネルギー消費実態調査について』(2002年、2003年)より環境省作成

●日本の年齢(3区分)別人口の推移



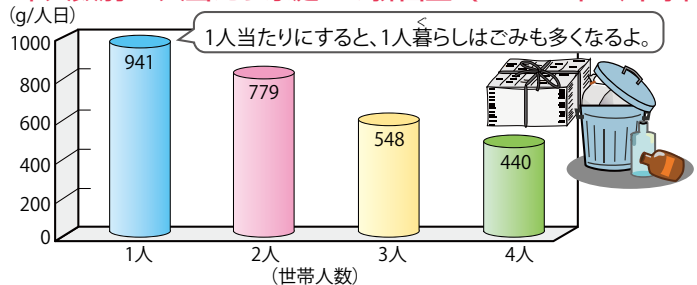
注：将来推計人口は中位推計
資料：総務省統計局『国勢調査報告』、国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』(2002(平成14)年1月推計)より環境省作成

●世帯人数別1人当たりエネルギー消費量



出典：日本建築学会環境系 文集第583号(2004年9月)；長谷川 善明、井戸 隆；全国環境アンケートによる住宅内エネルギー消費の実態に関する研究より環境省作成

●世帯人数別1人当たり家庭ごみ排出量(2003年 川崎市)



注：家庭ごみとは、普通ごみ、資源ごみ(分別ごみ)、市民団体等回収ごみをいう。
資料：川崎市役所『平成15年度市民ごみ排出実態調査』より環境省作成

田舎はどうなるのかな？

田舎では、もう人口が減り始めていて、これからも都会に比べて急激に減ってしまいそうです（過疎化）。今でも田舎では、生徒が減って学校がなくなったり、村に住む人がいなくなったりしているところもあります。これは、若い世代が仕事や便利な暮らしを求めて都会に引越してしまうことも影響しているのです。その結果、田舎にはお年寄りしか住んでいない地域が今より多くなります。

お年寄りだけでは、手入れができなくなって、ほったらかしになってしまった田んぼや畑、山林が増えてしまうことになります。

人がつくった豊かな自然「里地里山」にせまる危機

かつて日本人の暮らしは、自然のしくみを上手に利用していました。里山の雑木林から薪や炭を作り、落ち葉は田畑の肥料に利用していました。人が雑木林に手を入れることで、林の中には、適度に光が入り、さまざまな草花が育ち、みんなが大好きなカブトムシやクワガタムシもすむ豊かな自然が育まれてきました。

しかし、薪や炭を使わなくなるなど、里地里山と人の関わりが少なくなり、手入れがされず豊かな自然環境が失われつつあります。



手入れをしなくなる



「おいおい、にげてどうするのじゃ、年寄りの知恵を生かして、かしこく暮らす方法があるのじゃよ。」



◀ 「それじゃ、ここで昔ばなしをしてやろう。
とおーい昔、わしらが『おでん』と呼ば
れるようになったころのことじゃよ。」

「おでんは、いまから数百年前の江戸時代には、まちの人々に人気の食べ物じゃったん
じゃ。あのころはの・・・。」 ▶



かんきょう にっぽん環境むかし話

江戸時代（今から140～400年前）は、生活に必要なものはすべて身のまわりから集めてくる必要がありました。今みたいに外国からの輸入に頼っていませんでした。江戸時代の人々はモノをととても大切に使って、限られた資源を上手に活用していました。

当時の江戸の人口は100万人を超え、ロンドンやパリをしのぐ世界最大の都市でしたが、ごみも少なく清潔で美しい都市でした。

1. 江戸のリサイクルビジネス

江戸の人々はごみや不用品を回収し、資源としてとことん利用していました。

江戸には様々なリサイクルのしくみがあって、それに関わるリサイクルビジネスが盛んだったからです。

この人たちは、どんなリサイクルビジネスをしているのかな？

1



2



3



4



5



6



1 **いかけ屋**: なべやかまの修理をする。修理道具を持ち歩いており、その場で修理してくれた。

2 **湯屋の木ひろい**: 銭湯の燃料用の木を集めるため、町なかや川原を歩いて、燃えそうな木を集めた。

正 3 **そろばん直し**: 江戸時代の計算機『そろばん』の修理をする職人。

解 4 **三つ物売り**: 古着屋。江戸には古着屋がたくさんあった。布はすべて手織りだったので貴重品だった。

5 **下駄の歯入れ**: 下駄の歯をその場で交換する。下駄の歯はすぐすりへるので、歯を交換できるようにした下駄もあった。

6 **かさの古骨買い**: 古くなったかさを買い集める。江戸時代のかさは、竹の骨組みに油紙をはって作っていたが、修理して使うのが当たり前だった。

2. 都市と農村の意外な関係

江戸時代、人の排泄物も貴重な資源として活用されていました。江戸時代の農家は、町にやってきて武家や町屋から肥（うんちやおしっこ）を買い取っていました。化学肥料がない江戸時代、排泄物は貴重な肥料だったわけです。

肥くみ：排泄物をお金や野菜と交換していました。

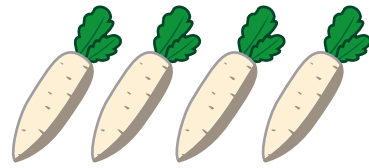
農村でできた野菜や米などを町の人たちが食べます。そして食べた後に出るものを町から農村の土に養分としてかえします。

食べ物がぐるりとまわってまた食べ物になっていました。



1年分

交換



50本

または、



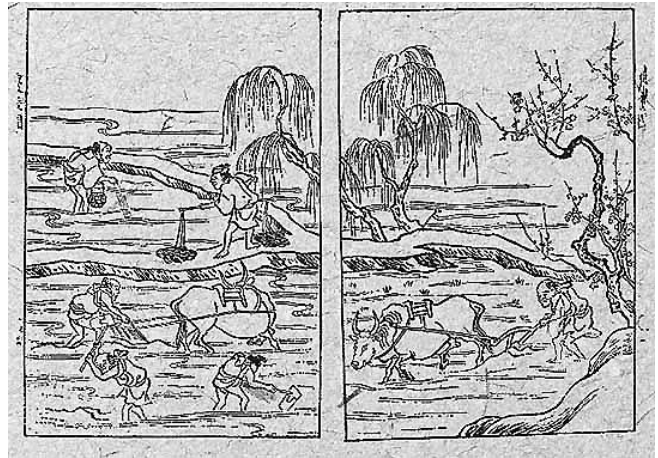
50コ

3. 江戸時代の農村の暮らし

江戸時代は、今のように便利な機械がなく、村の人がいっしょになって、米づくりをしていました。田んぼづくりや田植え、収穫などをみんなで協力していました。

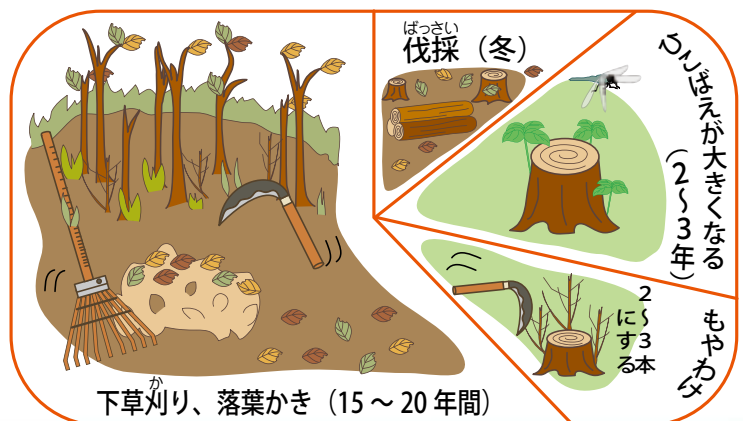
田んぼにまく肥料は、都会から運んできた肥だけでなく、雑木林の落葉なども利用していました。

冬場、里山の雑木林では「落葉かき」といって、クヌギやコナラの落葉をたくさん集めて堆肥がつけられました。落葉は貴重な肥料だったから、里山は、「入会い地」として村の人たちのみんなの財産として大切に手入れされていたのです。



元禄時代の田おこしの様子：クワやスキで田をおこし、堆肥や肥などの肥料をまきました。

(資料：日本農書全集 社団法人農山漁村文化協会発行)



雑木林の「手入れ」のサイクル



◀「むかしの暮らしはこれからの日本人の暮らしのヒントになると思っているんじゃないよ。」

かのう 持続可能な社会に向けて

1. 日本人の暮らしの知恵とわざを学ぶ

昔の知恵を活かす「打ち水大作戦」

昔の人は暑い夏をのりきるために「打ち水」をしていました。地面に水をまくと、水の気化熱で周囲の気温が下がるしくみを利用しています。

打ち水は誰でも気軽にできる環境活動です。暑い日は打ち水をして、真夏の気温を下げてください。

水は風呂の残り湯などを使いましょう。

(打ち水大作戦ホームページ <http://www.uchimizu.jp/>)



打ち水大作戦の様子
(写真提供：打ち水大作戦本部)

お年寄りから学ぶ「山しごと」(岡山県津山市)

手入れされずに荒れた里山を救おうと、元気なお年寄りが集まってボランティア活動を始めました。お年寄りが先生になって、地元の小学生に里山の自然や、炭焼き、きのこづくりなどを教える活動をしています。

お年寄りは、こどもといっしょに、たのしく活動できて、さらに元気な気持ちになるし、こどもたちも、お年寄りから、里山の自然や昔の知恵を学ぶことができ、さらに里山も元気になっています。



炭焼き体験

地域の文化に触れる(京都府京丹後市)

農村では、昔は茅葺きや笹葺きの屋根があったけど、今では見られなくなりました。

こうした屋根の葺き替えは、材料や人を集めるのが大変だし、葺き替えが出来る職人さんもいなくなってしまい、新しい建物にしてしまうことが多いのです。

京丹後市では、伝統的な笹葺き屋根の民家を守ろうと、市民が集まって屋根の葺き替えに取り組みました。この活動は、民家を守るだけでなく、地域の文化や里山の風景を守ることもなったのです。



笹葺き屋根の修理

ポイント 「環境にやさしい」を表すマーク

「省エネ性マーク」のついた製品や「環境ラベル」がついた

自動車を選びましょう。

環境にやさしいものを使う人が増えれば、二酸化炭素の削減の効果も大きくなります。



基準を達成した製品の例
省エネ性マーク



低排出ガス車認定制度のステッカー



自動車燃費性能表示制度のステッカー

2. こころの豊かさを求める社会

これまで「豊かさ」とは「便利な暮らしやモノを手に入れること」でしたが、公害、ごみ問題、地球温暖化など、様々な環境問題を体験してきた日本では、「豊かさ」の考え方が変わりつつあります。ロハスやスローライフなど「健康で、環境にやさしく、ゆったりと暮らす」という「こころの豊かさ」を大切にしている人が増えてきています。

自然とのふれあい

田舎暮らしをして野菜を育てたり、エコツアー（くわしくはP32）に行ったりと、自然とふれあう活動をした人が増えています。



里山保全活動などの自然とふれあうボランティア活動が広がりを見せているよ。

(写真提供：峯岸律子氏)

環境に配慮したスタイル

環境にやさしく、カッコよく働くことができるビジネススタイルを取り入れる人が増えてきました。

COOLBIZ ケールビズ

冷房は28℃に

ノー上着・ノーネクタイで涼しく

ウォームビズ **WARMBIZ**

暖房は20℃に

寒いときは、重ね着して、暖かく

地産地消

野菜や果物など、地元でとれた旬の農産物を食べる方が、遠くから輸送してくるより環境にやさしいのです（くわしくはP 34）。

神奈川県川崎市では、地元農家の協力で学校給食に地元野菜を取り入れています。



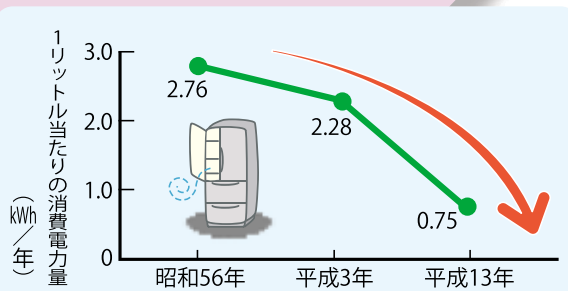
川崎市の農産物やその歴史についても勉強しているよ。

(写真提供：川崎市農業振興センター)

環境にやさしい商品を選ぶ

「環境にやさしい」を、商品を選ぶときの基準にしている人が増えています。電気代も節約できて、まさに一石二鳥です。

●冷蔵庫の省エネ性能の変化



注：定格内容積及び定格内容積1リットル当たりの年間消費電力量は、各社主力冷蔵庫の平均値
資料：(社)日本電気工業会調べより環境省作成



「DASH村」

テレビ番組「ザ!鉄腕!DASH!!」の人気コーナーのひとつが、DASH村。このコーナーでは、200年前に建てられた古い民家を作り直して生活拠点にして、昔からの技術で農作物を作ったり、里山の林で炭をつくったりするなど、地元の人から学びながら、自然と共に楽しく暮らす様子を映し出しています。

その他にも、ソーラーカーを作って日本全国を走ったり、ちょっとした工夫でできる家庭の節約術など、環境にもやさしい生活を紹介しているコーナーもあります。



田んぼの雑草や虫を食べるアイガモ (写真提供：日本テレビ)

(「DASH WEB」(ザ!鉄腕!DASH!!) <http://www.ntv.co.jp/dash/>)

さとちさとやま 3. 里地里山を元気にする取組

さとち 都市と協力して里地を守る 「**棚田オーナー制度**」(京都府福知山市)

荒れた棚田を都市に住む人たちに借りてもらい、田植えや稲刈りなど米づくりに参加してもらうことで、棚田を含めた、里地里山の風景を守っています。

この棚田は、美しい農村景観として「日本の棚田百選」に選ばれています。

(日本の棚田百選ホームページ)

<http://www.acres.or.jp/Acres20030602/tanada/index.htm>)



棚田での田植えの様子 (写真提供：京都府福知山市)

でんとうき 伝統的農法の活用 「**ふゆみずたんぼ**」(宮城県大崎市田尻町など)

冬にたんぼに水をはることで、土を豊かにしたり、夏に雑草を生えにくくする農法が江戸時代から伝わっています。この方法を活用した「ふゆみずたんぼ」は、農薬を減らせるので、環境にもやさしい農業です。たんぼに水があるから、冬の渡り鳥マガンやハクチョウがねぐらとして利用するようになりました。

このような「ふゆみずたんぼ」は、「蕪栗沼」周辺でも行われていて、「蕪栗沼」と一緒にラムサール条約(※)に登録されています。

※ラムサール条約：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地を守っていく外国との約束。



「ふゆみずたんぼ」で羽を休めるマガンやハクチョウ (写真提供：「日本雁を保護する会」)

さとやま 里山ボランティア

「**落葉かきでヤマビルを減らす**」(神奈川県秦野市)

50年前までは、畑にまく堆肥をつくるため、雑木林では落葉かきが盛んでした。堆肥がなくなると、人の手入れがなくなり、里山は暗く湿った森になり、ヤマビルが増えてしまいました。

地元の人たちは、落葉かきをすれば、ヤマビルが減ることを知っていたので、市民のボランティア活動で落葉かきや下草刈りをはじめました。



落葉かきの様子 (写真提供：神奈川県秦野市森林づくり課)

かのう すがた
持続可能な“まち”の姿

手入れのゆきとどいた
さと ちさとやま
里地里山



とやま
「富山市のコンパクトシティ」

地方都市では、まちの中に空き家になった店や空き地が増えているので、「まちなか」にもっとたくさんの人に住んでもらおうと行政と市民が協力しながら、様々な取組を進めています。

その一つが、自動車を運転できないこともやお年寄りをはじめ誰もが「歩いて暮らせるまち・コンパクトシティ」をつくろうという取組です。

富山市では、今年の春、先がけとして、お年寄りや体の不自由な人などにやさしく、また自動車にたよりすぎないように、LRT (Light Rail Transit) と呼ばれる路面電車が開業しました。

歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりは、人にやさしいだけではなく、自動車の使用を少なくすることで、排気ガスやエネルギー消費が小さくなり、環境にもやさしいまちづくりになります。



お年寄りにも乗り降りしやすい低床型の路面電車

かんきょうしょう
環境省の

しごと紹介

かんきょうしょう 環境省全体をまとめる仕事 (総合環境政策局)

かんきょう かんきょうほ ぜん かんきょう しょうほう
環境学習や環境保全活動を広めたり、環境について情報発信したりしています。

また、部局をこえて かんきょうしょう かいけつ
環境省全体で解決しなければならない問題に取り組んでいます。

かんきょうしょう
(環境省のホームページ <http://www.env.go.jp/policy/>)

